

甲斐市立玉幡小学校 令和2年度 学校便り 第10号



チーム玉幡

令和2年7月21日

学校長 丸茂和也

小さな命、その生長から

1年生が植えた「あさがお」や2年生が植えた「ミニトマト」がすくすくと成長し、もう子供たちの背の高さを超えるほど大きくなってきました。3年生の「やはたいも」、4年生の「ヘチマ」も順調に大きくなっています。また5年生の「バケツ稲」も大分稲らしく生長をしてきました。

小さかった種が、子供たちが毎日世話をすることで大きく、たくましく生長をしてきています。そして、その生長は私たちに相手への思いやりの心を育んだり、自分がいなければ育たないという自己有用感を与えてくれたり、生長して花を咲かせ実を結んだときの喜びや達成感などももたらしたりと、人として大切な心をたくさん教えてくれているように思います。

先日こんな詩を目にしました。

「命のたくましき」

春になり花が咲いている

大木の根が伸び大きな岩を割って、そのすき間にできたわずかな空間に、種を落とし芽を出し、小さな花が咲いている。

どんなところでも咲こうとする、力強く生きようとする、命のたくましき。

そういう命のたくましさを私たちももっている。

そのたくましさを信じてみよう！

どんなところでも、自分の花を咲かせてみせよう。



人は誰もが自分だけの良さ、すばらしい可能性をもっています。玉幡小学校には、全部で290輪の花があります。そのすべてが自分のもつ可能性をいっぱいにかけて、自分の精一杯の花を咲かせてほしい、290全ての花が満開になってもらいたい・・・小さな命がたくさんを私たちに伝えてくれます。



できるようになるために、まちがえる

「昨日の話し合いは、けっこう自分が言うところがつかかってしまいました。まちがえて言わなくてもいいことを言ったりしてしまいました。けれど『わからないことがあったら言って』とか気づかいはできました。」～6年生の便りから～

がんばったけれどもできなかった。失敗してしまった。そのような経験は子供たちに限らず大人にもよくあるものです。自分自身も日々そんなことの連続です。しかし人は素晴らしい力をもっていて、失敗して次はここを気をつけようと考えたり、練習を重ねてみたり、他の人はこんなやり方をしているとかを見て学んだりして、成功に近づくための努力をすることができます。バスケットボールの神様であるマイケル・ジョーダン選手のこんな言葉を見つけました。

今までに9,000ショットのミスをした。300ゲーム負けた。

ウイニングショットは26回外した。

失敗して、失敗して、失敗し続けた。

だから成功した。

マイケル・ジョーダン

全ての子どもが、今よりも一歩前に行きたい、自分の夢や希望をかなえたいと思っていると感じます。そのための努力が、たとえ失敗をしてもそこに至るまでの過程がとても尊いものであること、あきらめなければ未来につながることを子供たちに感じてもらう、そのことをこれからも学校全体で大切にしていけたらと感じる機会となりました。子供たちの努力やがんばっている過程や成果を、ご家庭でも励まし「いいね」「よくやっているね」等一言添えていただけますと幸いです。



◎1学期も本日を入れてあと6日間となりました。日々の検温を始めとする健康観察や家庭での学習支援等本当にありがとうございます。皆が健康で、笑顔で1学期のゴールテープを切ることができますように、これからも健康、笑顔が続きますように……